

利用者の声

実験廃水処理によせて

農学部 杉 尾 剛

「我々は子孫のために、将来に渡って十分安全な生活環境を確保していく義務がある」という観点から、本学では環境管理センターを中心に、毎日の教育、研究において生じてくる複雑多岐にわたる有害物質を大学外へ決して排出させないという決意で努力がなされてきたし、また将来も努力していこうとしている事は本当に嬉しい事です。

農学部においても、最近の pH 異常発生件数を参考にする限り、全員の努力がうかがえると言っても良いと思います。一回生及び二回生に対してそれぞれ開講されている分析化学、基礎化学及び基礎生物学実験等の講義の中で、環境問題、廃水処理について特に時間をさいて教育していますが学部学生が各研究室に所属されて本格的に研究を開始する4月（他大学から来た学生が本学で研究を開始する時期でもある）に、再三ビデオテープ等を用いて注意を喚起してきたのが良い結果につながったものと考えています。

土壌、河川水中に無数に存在する微生物、この微生物の存在に大きな影響を受ける植物、動物、これらすべてが我々と同じように生を受けた仲間と考えれば、彼らのいやがる物質を環境中に流す事はとても出来ません。もし流したとしても、人間以外の生物体内に濃縮されたこれらの物質は、廻り廻って我々の体内に入ってくる事になるので、困るのは我々自身です。従って、“有害物質は環境中へ決して排出させない”事がなんと言っても大切です。さて、使用済の重金属等の廃液は処理をほどこされ保管されていますが、これらを積極的に再利用するより安価な方法はないものでしょうか。

生物を中心テーマにしている農学部においては、環境問題に対してさらに細かい注意を払っていくと同時に、廃棄物の積極的利用法についても考えていかなければ……と思う今日この頃です。